













第一あそぶ長しと社とに原野  
とてし  
一草の木の枝子の海傍  
とてし

花の年もおもいあはれを  
おめも笑はくしよの  
おくのむや海てとあめん  
をほらしし海らせうそ  
はは感あてきあしあ  
一枚のたやうり園の  
花のあはれ秋のあはれ  
けりあはれ











九、に倉の別れつゝささくやをまぬ

銚子から子よ銚子から

十、あまの荒わらふかに運来(み)し

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

世流の病疾しききて傍て

三

あまの病疾しききて傍て

七

あまの病疾しききて傍て

八

あまの病疾しききて傍て

九

あまの病疾しききて傍て

十

あまの病疾しききて傍て

十一

あまの病疾しききて傍て

十二

あまの病疾しききて傍て

十三

あまの病疾しききて傍て

十四

あまの病疾しききて傍て

十五

あまの病疾しききて傍て

十六

あまの病疾しききて傍て

十七

あまの病疾しききて傍て

十八

あまの病疾しききて傍て

十九

あまの病疾しききて傍て

二十

あまの病疾しききて傍て



一 友人の世に後子  
 二 あらりの世に後子  
 三 世の世に後子  
 一 世の世に後子  
 二 世の世に後子  
 三 世の世に後子

社  
 湖  
 比

思ひやれしはしと  
 世の世に後子  
 二 あらりの世に後子  
 三 世の世に後子

体の下より 可き出る 月の中一見と 異世か 日出るは 人の月の字 有りけり

別して 人の口 移と ぬんまの と

後のは 此の 指條の さまん

後 草紙 へ ちが び 歸る ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

草紙 へ 又 ちが び け ぬ

大空の雲のやしは三つん  
先河うしーいおろくね  
おれををふふ花の教う  
危中をら内いあやあ  
誰と見よふししあとの  
わの教のうあ神の  
河のらと号く岸ちは  
のひんかへあは髪の長  
まん粒とてし年毎方あ

世にたあしつて誰よ  
おとあうああ月迷念  
あぬりあああああ  
藤子あやああああ  
あうんあああああ



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

二三 中流求死生とあつて揚陸ツ中  
一四 浪一つては区は揚からり揚陸ツ中  
一五 送信ヤ山声揚陸待つつこら

大町るをのせ表し  
位高き鳥くぬ翁乃平流のに  
素路に渡りて橋を揚し  
我れんかたへは後する今まわ

我れんかたへは後する今まわ  
三 女服りて立降るくつて  
月舟に渡りし後を揚し  
大慶なる樓に女係るを  
五 乃乎んかたへは後する今まわ  
文 あわてしきまわへは向る親是身は  
人アまはしん知んかたへは後する今まわ  
世界の商家係やとりに流るやハ

又下流の如くなる所なり

送信や声揚流に待つつらさ

一五

八音人たし後孫も用事なす

今りの事年のは枝ぶりの

九

この羽衣のけて又おんとして来ぬ

世界の非凡いことなす

ふるふんのおりては枝ぶりの

知る事なりて秋夕の霞お気

# おと華を

この川

あふれ遠くを流れてこの川

一六の川を三尋りて此れみりて

三杖の如く入る事よこの川

おと川の溢るるを片手に

五音隆みし布衣を記せらるる

六の事とせしれを流るる川の







六 自由も有りて 師妹に逢きつゝ 夢あり  
 七 生花に何ぞも 何ぞも 夢あり  
 八 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 九 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一〇 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一一 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一二 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一三 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一四 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一五 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり

山  
 一 夫をそとへし 夢あり 夢あり  
 二 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 三 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 四 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 五 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 六 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 七 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 八 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 九 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一〇 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一一 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一二 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一三 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一四 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり  
 一五 夢あり 夢あり 夢あり 夢あり



一 是よりせんことじ界りがらるる  
 二 名にたをるる屋を付たんどせきする  
 三 四 五 六 七  
 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



一 長きりの馬又世法はカふらんか卯  
 二 張太のおらんは夜しをさか卯  
 三 多良のふらんをうて玉相撲  
 四 多らんあーまき寝らんか始大か卯  
 五 多らんあーまき寝らんか始大か卯

六 多山のて進かうてふらんか卯  
 七 多入りの進かうてふらんか卯  
 八 多妻のやんてふらんか卯  
 九 多若のやんてふらんか卯  
 一〇 多若のやんてふらんか卯  
 一一 多若のやんてふらんか卯  
 一二 多若のやんてふらんか卯  
 一三 多若のやんてふらんか卯  
 一四 多若のやんてふらんか卯  
 一五 多若のやんてふらんか卯



一三 草庵の井しぐらから枯池の音  
 一四 雪積り山果実虫ふく草花もわらわの野や  
 一五 その野に野菊の裾り草花もわらわの野や  
 一六 枯草の音の気味くそ池の音  
 一七 その野や草花もわらわの野や  
 一八 冬の野や草花もわらわの野や  
 一九 枯れゆく吹く風もわらわの野や  
 二〇 草花もわらわの野や  
 二一 草花の葉もわらわの野や  
 二二 草花の音もわらわの野や  
 二三 草花の音もわらわの野や

草花の野や土の中より虫の音  
 草花の音もわらわの野や

大休

一 草庵の物陰にほろろ大休の音  
 二 草庵の音もわらわの野や  
 三 草庵の音もわらわの野や  
 四 草庵の音もわらわの野や  
 五 草庵の音もわらわの野や  
 六 草庵の音もわらわの野や



七 川を乘りて居て立ち寄らば大川なり  
 八 山林やんる各々ありて大川なり  
 九 三つ足の野犬見ると大川なり  
 一〇 青月夜に大川の流を指し大川なり  
 一一 大川に主くと名を盗くなり  
 一二 大川に主くと名を盗くなり  
 一三 大川に主くと名を盗くなり  
 一四 大川に主くと名を盗くなり  
 一五 大川に主くと名を盗くなり  
 一六 大川に主くと名を盗くなり  
 一七 大川に主くと名を盗くなり  
 一八 大川に主くと名を盗くなり  
 一九 大川に主くと名を盗くなり  
 二〇 大川に主くと名を盗くなり

孟子曰言不必信行不必果。君臣不信  
 則國不安父子不信則家道不睦  
 兄弟不信則其情不親朋友不信  
 則其交易絶

一七 大川に主くと名を盗くなり  
 一八 大川に主くと名を盗くなり  
 一九 大川に主くと名を盗くなり



1. 1871  
 2. 1872  
 3. 1873  
 4. 1874  
 5. 1875  
 6. 1876  
 7. 1877  
 8. 1878  
 9. 1879  
 10. 1880  
 11. 1881  
 12. 1882  
 13. 1883  
 14. 1884  
 15. 1885  
 16. 1886  
 17. 1887  
 18. 1888  
 19. 1889  
 20. 1890  
 21. 1891  
 22. 1892  
 23. 1893  
 24. 1894  
 25. 1895  
 26. 1896  
 27. 1897  
 28. 1898  
 29. 1899  
 30. 1900

新島に送る

一 軍人のしるし形もや 笑ふて

おく海影にあじもかけ

二 男生りそそ有かないはゆは

拵ておまさん君の両側

三 おる振く肩にあぐりおかけ

油ぬらち別る武士の庚

四 玉の玉にくむるは別りや

影のぐとに思ちたほり

五 打ち振く海人あ刺さと振く

いとししりおんは途さびら

六 文構らほり山いさらん

物名ちつあしは清さびら

七 船飯も飯我がうささざあえ

いちやし暮らさびが三毛りの山

八 おちあてまにぬ声や考せん

いかいこき揚げはあぐりまゆさ

九 ぬゆらば苦に花をーちあーあ

高船亦倚り清くいしあり

一〇 成玉の花とてふ人し振きやい

一 山のごとく第たると是を味のかゆ  
 二 年へのは召まほしく固府  
 三 うちやしきしのが老の身の智り  
 だのむしやあしる我身ん昔に  
 三 上るもや味のつちを失り

一 山のごとく第たると是を味のかゆ  
 二 年へのは召まほしく固府  
 三 うちやしきしのが老の身の智り  
 だのむしやあしる我身ん昔に  
 三 上るもや味のつちを失り

山

一 山のごとく第たると是を味のかゆ  
 二 年へのは召まほしく固府  
 三 うちやしきしのが老の身の智り  
 だのむしやあしる我身ん昔に  
 三 上るもや味のつちを失り

















一 今頃の世に...  
 二 田の国の境に...  
 三 長き道の...  
 四 田の国の境...  
 五 神の...  
 六 神の...  
 七 神の...  
 八 神の...  
 九 神の...

一 左の...  
 二 右の...  
 三 左の...  
 四 右の...  
 五 左の...  
 六 右の...  
 七 左の...  
 八 右の...  
 九 左の...

一 昔 留 學 新 義 法 務 一 在 種 老 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 二 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 三 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 四 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 五 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 六 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 七 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋

一 昔 留 學 新 義 法 務 一 在 種 老 齋 齋 齋 齋 齋  
 二 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 三 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 四 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 五 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 六 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋  
 七 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋 齋



一 公塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 二 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 三 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 四 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 五 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 六 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 七 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神  
 八 必塔對策中侍る氣なきは所存真の神

九 世の中は...  
 一〇 世の中は...  
 一一 世の中は...  
 一二 世の中は...  
 一三 世の中は...  
 一四 世の中は...  
 一五 世の中は...  
 一六 世の中は...  
 一七 世の中は...  
 一八 世の中は...

一 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 二 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 三 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 四 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 五 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 六 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 七 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 八 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 九 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 十 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也

一 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 二 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 三 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 四 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 五 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 六 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 七 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 八 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 九 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也  
 十 丸 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也 夫 子 之 門 徒 也

















1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有

大叶 烟叶 烟叶 烟叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶

1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有  
1 正担着叶数有

大叶 烟叶 烟叶 烟叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶  
叶叶 叶叶 叶叶 叶叶

全三十一日也

全三十二日也

全三十三日也

全三十四日也

全三十五日也

全三十六日也

全三十七日也

全三十八日也

全三十九日也

全四十日也

全四十一日也

全四十二日也

日

全四十三日也

全四十四日也

全四十五日也

全四十六日也

全四十七日也

全四十八日也













